

科目名	コマース研究ゼミナール	科目コード	1211	単位数	2
担当者名	深澤 史樹	開講セメスター	第6セメスター	開講年次	3年次
授業の方法	演習	実務経験	無		

●授業のねらい

- ・当ゼミでは、「調べて、書く、他者に伝えるためのプレゼンテーションができる」を目標に、そのために必要な方法論を学び、少人数で実践的訓練を行う。さらに、書籍やネットの世界のみならず、現場主義を大切にするために可能な限りフィールドワークなども取り入れる予定です。
- ・具体的には、輪読を通じた演習形式とする。学生が司会者、報告者、討論者となり積極的な議論の場を通して、ディプロマ・ポリシーにある、豊かな人間形成における幅広い教養とコミュニケーション能力を身につけるとともに、修得した知識および技能により、自ら課題を発見し解決する能力を身につける場とする。

●到達目標

- ・自分が知りたい「情報」をどのようにして引き出すのかを理解できる。具体的には、ネットからの引き出し方、図書館（学術データベース）からの引き出し方、直接的に人や現場に接する（ヒアリング調査等）によって情報を引き出すことができるようになる。
- ・集めた情報を整理、分類してまとめる、つまり「書く」ことができるようになる。
- ・自分がまとめた内容を、他社へ伝える、つまり「プレゼンする」ことができるようになる。
- ・他者の主張を理解し、まとめる能力を養う。

●授業内容

- 1週目 ガイダンス（ゼミでの約束事項の確認、ゼミ内での役割分担の確認、輪読やフィールドワークに関する意見交換）
- 2週目 輪読のための書籍選定と決定
- 3週目 輪読開始 輪番者による報告発表と議論 「序章・第1章」
- 4週目 輪番者による報告発表と議論 「第2章」
- 5週目 輪番者による報告発表と議論 「第3章」
- 6週目 輪番者による報告発表と議論 「第4章」
- 7週目 輪番者による報告発表と議論 「第5章」
- 8週目 輪番者による報告発表と議論 「第6章」
- 9週目 輪番者による報告発表と議論 「第7章」
- 10週目 輪番者による報告発表と議論 「第8章」
- 11週目 輪番者による報告発表と議論 「第9章」
- 12週目 輪番者による報告発表と議論 「第10章・終章」
- 13週目 フィールドワークのための準備
- 14週目 フィールドワークの実施
- 15週目 フィールドワークの振り返り
- 16週目 ゼミナール全般に対する講評。但し、やむを得ず、15週目までのゼミナール内容を実施できなかった場合は、補講授業を行います。

●準備学習(予習・復習)等の内容

- ・広く文章に触れる機会を多く作ること。大量の文章を読むことにできるだけ慣れておくこと。
- ・レポートなど文章を書く機会を多く持つこと。苦手意識の克服が必要。
- ・パソコン（特にキーボード入力）を多用するので慣れておくこと。
- ・輪読する書籍について、事前学習として読み、内容やポイントを把握しておくこと（所要時間：90分）。また、事後学習として、報告者のレジメやゼミで議論された内容を反芻し、さらなる考察を促すために課題を課すこともある（所要時間：90分）。

●成績評価の方法・基準

- ・ゼミ活動を通じて、司会者、報告者、討論者の役割をきちんと理解し、積極的に参加しているか。とりわけ、報告者としてその義務を果たすことを重要視します（80％）。
- ・学生自身でタスク管理（時間や期日を守る）がなされているか（20％）。

●履修上の留意点

- ・成績評価は、11週以上ゼミナールに出席した学生を対象とする。

●課題に対するフィードバックの方法

- ・毎回、報告者へは報告内容、レジメの書き方やプレゼンの方法、司会者へは司会の進め方、議論の進め方、討論者へは議論へ参加する態度等、良かった点や課題などゼミナールの講評を行う。
- ・ゼミナール時間外においても、学生の要請に対して直接もしくはCoursePowerを利用してフィードバックなどの支援をする。

●テキスト

- 輪読で使用する書籍の決定後、明示する。

●参考書

- 石黒圭(著),『論文・レポートの基本』（日本実業出版社）,2012年,1,400円+税

●更新日付

- 2020/03/04 09:34